

季節風

元気を出そう北海道

情報広報部長 中川 俊男

アテネオリンピックでの日本のメダルラッシュが連日報道される中、道民に夢のような感動が巻き起こった。甲子園球場での全国高校野球選手権大会で、駒大苫小牧高校が優勝という大快挙を成し遂げたのだ。大会通算チーム打率四割四分八厘で記録を更新し、5試合全てが10安打以上、決勝戦は20安打も放った。失策が大会を通じて1というのも光っている。堂々とした戦いぶりで、日大三高、横浜高校という優勝候補を次々に連破していった彼らの表情は自信に満ちていた。さらに、ベンチ入りしたメンバー全員が道産子で、道外勢は一人もいないというのだから頼もしい限りだ。

決勝戦の行われた8月22日は日曜日で、天候は全道的に快挙を祝福するかのようには晴れていた。地元苫小牧だけでなく、札幌の三越前交差点でテレビ放映された大型ビジョン前にも大群衆が集まり夢を追った。NHKテレビの道内の最高瞬間視聴率は46%にもなっていた。メディアのインタビューに答える道民は、笑顔で異口同音に「うれしい」、「画期的だ」、「道民として誇りに思う」と話し、最後に「勇気をもらいました」と胸を熱くする人も多かった。オリンピックの金メダルよりも感動したという道民が8割以上だという調査もあ

った。

バブル崩壊後の「失われた10年」に続く、今世紀初頭の「空白の10年」が現実のものとなりそうな不況が北海道に停滞している。全国的に言われている景気回復の兆しは、まだ実感できない。全国最下位の完全失業率6.9%などに表れるように、道民の暮らしの先行きは本当に不安である。地方分権、道州制特区、市町村合併、三位一体改革など、今政治の議論の渦中にあるキーワードは、どれもが北海道にとって厳しく自立を求めるものばかりだ。たとえ政権が変わっても、この流れは変わらないだろう。

かつては特別に開発を推進するための北海道開発庁があり、今は北海道開発局になったが、北海道特例に代表されるように国の補助金や公共事業に依存する経済体質を変革しなければ、北海道の未来はないといわれる。しかし、北海道には、誇るべきデータも多くある。温泉地数245カ所、食料自給率190%（東京1%、大阪2%、神奈川3%）、海面漁業・養殖業生産量158万トン（全国の26.3%）などは断トツの全国1位であるし、もちろん面積は最大で国土の22.1%を占めている。これらを全部利点と捉えて有効利用し、北海道のイメージアップを北海道外や国外に向けて最大限に図るべきだろう。全道民あげての「観光立国北海道」の充実も重要な選択肢だ。

全国制覇を成し遂げた駒大苫小牧ナインを乗せた千歳行きの機内で、大歓声が起こったという。飛行機が津軽海峡に差しかけた時、機長が、「ただいま、深紅の大優勝旗が津軽海峡を越えます。選手のみなさん、本当におめでとう。」とアナウンスしたという。胸が熱くなるシーンが目につく。

不安や心配ばかりではどんな未来も開けない。「元気を出そう北海道」という力強いメッセージが、駒大苫小牧高校ナインから強烈に発信されたと多くの道民が感じたに違いない。